

2024 年度

# 事業報告書

社会福祉法人 地域で一緒に暮らそう会

## 1 2024年度の事業経過と総括

2024年度も障がい福祉サービスの担い手として、健全な経営のもときめ細やかな質の高いサービスの提供に努めてまいりましたが、感染症などによる利用料の減や物価の高騰、職員給与等の増加などにより収支差額が確保できない状況となりました。

新型コロナウイルスをはじめとする感染症は、地域や季節によって流行する兆しがあるため、利用者や職員の安全を最優先に徹底した感染予防対策を行いました。しかしながら、グループホームかので、5月24日に利用者1名が新型コロナウイルス等感染症を発症し、職員2名、利用者2名に感染しました。さらに6月1日に職員1名が発症し、4名が溶連菌になったことから、地域サポートセンターえがおとグループホームかのとぼこあぼこの利用を停止しました。

また、利用者や職員、家族の間で、感染が広まったことから8月23～25日の3日間グループホーム3棟と、8月23、24日の2日間えがおを閉鎖しました。

令和7年2月4日には、日本全国の観測地点の中で12時間降雪量が最も多い「観測史上1位」を記録する120センチの降雪に見舞われたことから、グループホームを除くすべての事業所を1日間閉鎖しました。

職員の労働環境の向上については、子の看護休暇及び介護休暇を拡充してさらなる充実を図りました。また、懲戒処分について、厳格な処分決定を図るため懲戒委員会を設ける規程を制定しました。

職員を対象にアンケートを実施し、仕事の量や満足度、職場環境等について調査しました。

職員研修では、町の補助金を活用して伊達市より外部講師を招き、障がいのある人の恋愛や結婚など自身の思いを実現させるには、職員や家族など周りの人たちは、利用者一人ひとりにどのように支援すればいいのか、その方法について学ぶ機会を提供しました。

施設等については、きらきはうすの壁塗装を実施したほか、快適な住環境の整備として、グループホームワルツのエアコン入替えを行いました。また、経年劣化等による修繕等を行いました。

車両については、公益社団法人24時間テレビチャリティー委員会より、4輪駆動のスロープ付き普通自動車1台の贈呈通知がありました。また、7月15日に地域サポートセンターえがおに勤務する職員が、公用車を1人で運転中に交差点で右折した際、前方確認を怠ったため、直進してきた軽自動車と衝突しました。このため公用車1台を廃車にしました。

2024年度法人目標である「きめ細やかな支援と安心安全な生活の提供」と「職員がいつまでも働き続けたいと思う職場づくり」の達成に取り組みました。

### 「きめ細やかな支援と安心安全な生活の提供」

感染症の発生や感染拡大を防止するために、感染対策委員会を設置、開催し、感染症発生時のグループホームのゾーニングや職員が罹患または濃厚接触者となった場合の対応等について検討したほか、職員への研修と訓練を実施しました。また、虐待防止・身体拘束適正化委員会を開催し、起こりやすい職場環境の確認と改善・ストレス要因が高い労働条件等の考え方について議論しました。さらに職場環境の確

認と改善 ・ ストレス要因が高い労働条件について虐待発生メカニズム、虐待を招く要因、緊急やむを得ない場合の身体拘束等について研修しました。

#### 「業務継続計画（BCP）」

新型コロナウイルス感染症は、計画書の内容について職員研修を実施したほか、机上にて、発生時の連絡体制を確認するとともに、模擬訓練を実施しました。また、自然災害については、グループに分かれて、停電時の対応についてこちらも模擬訓練を行いました。

#### 「職員がいつまでも働きたいと思う職場づくり」

働き甲斐や魅力のある職場作りを目指すため、労働関係法令の遵守と適切な労務管理により、職員の安全と健康を確保し、快適な環境づくりを推進しました。また、ライフステージの変化に配慮した、働きやすい職場環境づくりに努めました。

- 1 仕事と生活がともに充実し、相乗効果を生み出す「理想的なワークライフバランス」の推進に努めました。
- 2 優秀な人材を確保するとともに、すべての職員が末長く働いていただくために、モチベーションを高く持って働き続けられるようライフステージの変化に配慮した魅力ある職場づくりに努めました。
- 3 労働関係法令の遵守と適切な労務管理により、職員の安全と健康を確保し、快適な環境づくりを推進しました。
- 4 効率的に仕事ができるよう、ICTの導入を検討しました。
  - ① 採用ツール（求人ポータルサイト等、ホームページの見直しも含む）を積極的に活用しました。
  - ② 資格取得等キャリアアップを含めた奨学金制度の周知及び資格取得試験に対する特別休暇制度の導入
  - ③ 就職準備金の周知（ホームページ等）
  - ④ 仕事への誇りを持たせるための研修（eラーニング）
  - ⑤ ICTの更なる活用（電子帳簿保存法の対応を含む）
  - ⑥ 職場環境の課題等を明確にするため、コミュニケーションの場を定期的に設定
  - ⑦ 効果的な広報戦略の推進

義務化された経営状況の閲覧・公表を行い、透明性の高い法人経営を確立しました。さらに、福祉の職場に対するイメージアップを図るとともに、法人が行う社会福祉事業、地域における公益的取組等、様々な事業内容について情報を発信しました。

次に各事業所について総括します。（収支については計算書の参照ページを入れてあります。）

#### 「社会福祉拠点」

◎共同生活援助（グループホーム）事業は、定員 14 人に対し、延利用者人数は、前年度比 67 人減の 3,459 人となりました。更に、空床型短期入所の利用状況を加えると延利用者数 3,649 人となりました。

また、新型コロナウイルス感染症に伴う事業所閉鎖が、かのん 3 日間、ワルツ 5 日間、ぽこあぽこ 5 日

間ありました。また、感染症と保護者等の体調不良による緊急対応が 27 日間ありました。稼働率は前年度比 0.4%減の 83.3%となりました。

2カ月に1回（偶数月）各グループホーム会議、2カ月に1回（奇数月）全体会議を開催し、利用者の状況について議論するとともにスタッフ同士の連携（コミュニケーション）を図りました。また、グループホーム全体で、毎月1回きらきら横丁を開催し、カラオケをしながら、飲食を共にし交流を深めて楽しみました。7月には焼肉店へ行き、3棟合同で食事を楽しみました。

#### 収 支（計算書 P41）

**事業収益**は、前年度比 2,833 千円減の 34,011 千円となりました。主な要因は、新型コロナウイルス感染症に伴う事業所の閉鎖が 2 回（54 人減）594 千円減、利用者 1 名 8 月より利用日の変更（40 日減）360 千円減、報酬改定に伴い 2,410 千円減、緊急対応（27 日間）328 千円増、その他 203 千円増となりました。

**事業活動支出**は、前年度比 5,402 千円増の 34,915 千円となりました。主な要因は、人件費 6,155 千円増（サビ管変更、職員配置増）、事業費 671 千円減、その他 82 千円減となりました。

**事業活動における経常増減差額**は、前年度比 8,794,943 円減の▲903,941 円となりました。

◎**短期入所事業**は、延利用者数が前年度対比 137 人増の 190 人となりました。

#### 収 支（計算書 P41）

**事業収益**は、前年度比 1,191 千円増の 1,747 千円となりました。

**事業活動支出**は、前年度比 66 千円増の 178 千円となりました。

**事業活動における経常増減差額**は、前年度比 1,124,740 円増の 1,568,613 円となりました。

◎**児童発達・放課後等デイサービス**は、延べ利用人数は、404 人減の 1,841 人となり（内重心 234 人、289 人減・言語 136 人、17 人減・きらきら放デイ 1,471 人、98 人減）、稼働率は 68%（前年度 5%増）でした。昨年度は「きらきらはうす」の放課後等デイサービス（定員 10 名）と「えがお」の児童発達・放課後等デイサービス（定員 5 名）でしたが、今年度は多機能型（定員 10 名）となりました。新型コロナウイルス感染症による事業所の閉鎖はありませんでしたが、大雪による事業所閉鎖 1 日間と、インフルや体調不良、長期入院と家庭の都合等によるキャンセルが増え、延べ利用人数は減となりました。また、言語療育対象児に関しては、発音、吃音の改善による終了児童は 5 名でした。今年度も、「音更町障害福祉サービス事業所における医療的介護対象者受入促進事業補助金（257 万円）」の事業収入がありましたが、延べ利用人数が伸びず収益を確保する事が出来ませんでした。

#### 収 支（計算書 P41）

**事業収益**は、前年度比 9,445 千円増の 24,660 千円となりました。主な要因として、えがお拠点の児童部門（重症心身）の移行に伴い収益の増となりました。

**事業活動支出**は、前年度比 5,231 千円増の 26,666 千円となりました。主な要因は、えがお拠点の児童部門の移動に伴い人件費 5,160 円増、その他 71 千円増となりました。

**事業活動における経常増減差額**は、前年度比 3,959,238 円増の▲1,706,036 円となりました。

## 「えがお拠点」

◎**生活介護事業**は、登録利用者 21 人、延べ利用者数 285 人減の 4,290 人、稼働率は 80% (前年度 11% 増) となりました。主な要因は、今年度より利用定員を 25 人から 20 人にしたことで利用者数は減となりましたが、稼働率は上がりました。また、新型コロナウイルス感染症による事業所閉鎖が 4 日間と大雪による閉鎖が 1 日間、また利用者のサービスの変更 (6 月～重度包括)、利用日の変更や体調不良などによる利用キャンセルがあり、延べ利用者数は伸びませんでした。

### 主な事業の反省

- ・年 2 回、利用者ニーズをもとに個別支援計画を立て、月 1 回 (午後から 3 時間) 全体会議を行い、グループに分かれて支援内容について議論することで、利用者本人の身体的状況やメンタル面の把握に努めることができました。
- ・新入職員には、指導する職員を固定し、支援手順書をもとに伝達を行い、支援後の振り返りを半年間行い、利用者の重度化に対応できる職員育成を図りました。また、必要に応じて個別に時間を設け、常に相談できる環境を整える事ができました。
- ・地域のボランティアによる「そば打ち体験会」や総合福祉センターで開催される「コミサポ」に参加し、利用者と地域の皆さんと交流することができました。今年度は、イベントの回数を増やし、「音楽祭、カラオケ、焼肉、紅葉狩り、作って食べよう、ハロウィン、ポーリング」と外出する機会を設け、利用者から高い評価を頂きました。活動等で作った作品の販売会には 3 回参加することができ、積極的に地域社会との接点を増やすことができました。
- ・活動内容の見直しを行い、ヨガ活動を新たに取り入れました。落ち着いた環境の中での活動で希望する利用者も増えました。
- ・日々の活動によるポイント付与制度 (1 日最大 40 ポイント) では、貯めたポイントでジュース類や音楽イベント用の CD の購入に使用しました。  
ポイント交換結果  
ジュース類・・・485 本 (延 485 人利用)  
商品券(¥1000)・・・61 枚 (延 16 人利用)
- ・感染症対策として、コロナ罹患者が発生した場合はすぐにゾーン分けを行うことで、感染拡大を防ぐことが出来ました。また、ゾーン分けに対応できるように、利用者スタッフの担当を把握できるようにタブレットで写真に残して対応しました。
- ・医療的ケア対象利用者の導尿及び痰吸引等を看護師により適切に支援するとともに、日々のバイタル測定を始め、体調の変化等の確認作業を行うことができました。

### 収 支 (計算書 P45)

**事業収益**は、前年度比 1,061 千円増の 70,845 千円となりました。主な要因として、看護師加配加算 1,200 千円増、利用者 1 名、重度包括へサービス変更と利用日数と利用時間の変更、体調不良などによる利用キャンセル (285 回) 2,184 千円減、看護師補助金収入 2,045 千円増となっています。

**事業活動支出**は、人件費前年度比 11,881 千円増の 66,106 千円で、主な要因は、職員給与等では 9,413

千円増（新規採用名：1名、外国人採用3名：12か月・前期4か月分）、非常勤職員給与では、351千円増（シフト増）、退職給付費510千円増、法定福利費1,607千円増となりました。また、事業費は、前年度比2,063千円減の8,883千円となり、事務費等では、前年度比764千円減の4,389千円となりました。

**事業活動における経常増減差額は、前年度比8,431,355円減の▲13,277,427円となりました。**

◎**就労継続支援B型事業**は、登録利用者2人延べ利用者数338人、稼働率13%となり、前年度比2%増となりました。

稼働率は13%と低い値ですが、各利用者のニーズをもとに支援計画を作成し、支援方法を検討、実施しました。利用者の状況によってはスモールステップを取り入れながら達成できるように支援しました。また、職員間においても適宜ミーティングを行い、よりよい支援が行えるよう課題の検討や状況確認をし、統一した支援ができるよう努めました。

利用者に関する情報共有では、日々の変化を作業の様子やコミュニケーションの中で、感じた気づきを大切にすることと、支援者間でも情報共有し各利用者の心身状況の理解に努めました。作業面でも安全安心に作業ができるようにしました。

商品販売においては、新商品を開発し、販売開始直後より好評を得ることができました。

また、製品取引先が1企業増の18企業でした。今年度は、製造収益の維持となりました。

#### **収 支（計算書P45）**

**事業収益**は、製造製品事業収益（商品販売）では、前年度比31千円増の2,098千円となりました。また、訓練等給付費は前年度比697千円増の2,761千円、補助金事業収益等は前年度比3千円減の155千円となりました。

**事業支出**は、人件費は前年度比367千円減の2,001千円、事業費は63千円増の181千円、事務費は36千円減の354千円となりました。

製造原価では、前年度比1,917千円増の9,550千円となりました。主な内訳は、材料仕入100千円増、労務費1,515千円増（職員1名の配置）、当期経費70千円増（印刷製本費723千円増、水道光熱費444千円減、その他経費209千円減）、在庫棚卸232千円増となりました。

**事業活動における経常増減差額は、前年度比711,779円減の、△7,778,430円となりました。**

◎**居宅介護事業**は、登録者数、重度訪問7人、居宅介護12人、行動援護8人、延利用者数は、前年度比重度訪問5人増、居宅介護81人増、行動援護60人減の3,932人となりました。新型コロナウイルス感染症の影響は、夏に感染が拡大し4日間の事業所閉鎖となりました。また、冬には記録的な大雪による事業所閉鎖が1日間ありました。事業所閉鎖以外にも今年度は新型コロナウイルスとインフルエンザの感染症が拡大したため収入に影響しました。

#### **主な事業の反省**

利用者のニーズをもとに個別支援計画を立て、日々のミーティングや支援会議で意見交換や情報共有し、支援内容の振り返りを行いました。

利用者や家族の思いを受容しながら、心身の状況や状態の変化と生活環境、家庭の変化等に関する情報を周知徹底し、情報共有に努めました。また、人権を尊重し、常に利用者の立場に立ち、毎日の入浴時

の衛生面の管理や外出時に安心安全なサービスを提供することができました。

新入職員には、基本情報や支援方法の伝達と支援手順書をもとに研修を行い、育成に努めました。また、必要に応じて個別に時間を設け、振り返りを行い、常に相談できる環境を整えることができました。

夏まつりとクリスマス会を企画し、楽しみながら、利用者同士の親睦を深めました。

#### 収 支 (計算書 P45)

事業収益は、前年度比 1,308 千円減の 66,113 千円となりました。

サービス事業では、身体介助 873 千円増（サービスの変更）、行動援護 825 千円減（利用者 1 名サービスの変更と事業所閉鎖等による利用減）、通院介助 209 千円減、重度訪問 1,116 千円減（利用時間の変更）その他（補助金収入）32 千円減となりました。

事業活動支出は、前年度比 4,979 千円増の 43,222 千円となりました。主な要因は、えがお拠点への移動に伴い減価償却 2,944 千円増、国庫補助金等特別積立金取崩額 818 千円増、清掃委託費 389 千円増、水道光熱費 1,967 千円増、その他 1,139 千円減でした。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 7,334,375 円増の 22,724,883 円となりました。

◎移動支援事業は、延利用者数が 391 人となりました。音更町（8 人）、士幌町（1 人）からの受託事業となりました。

#### 収 支 (計算書 P45)

事業収益は、前年度比 319 千円増の 2,679 千円となりました。

事業活動支出は、前年度比 1,170 千円増の 2,768 千円となりました。主な要因は、えがお拠点への移動に伴い、事業費 266 千円増、人件費 813 千円増、その他 91 千円増となりました。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 880,089 円減の▲100,315 円となりました。

◎相談支援事業は、登録利用者数 19 人、延べ利用者数が前年度比 6 人減の 55 人となりました。今年度は 2 名の退所利用者がいました。

#### 収 支 (計算書 P45)

事業収益は、前年度比 11 千円減の 866 千円となりました。

事業支出は、前年度比 285 千円減の 1,054 千円となりました。

事業活動における経常増減差額は、前年度比 277,104 円増の▲191,012 円となりました。

◎重度障害者等包括支援事業は、利用者数 1 人、延べ利用者数が 109 人となりました。今年度は 1 名の利用者がいましたが、10 月に入院し、その後 1 月にご逝去され登録者は無しとなりました。

#### 収 支 (計算書 P45)

事業収益は、844 千円となりました。

事業支出は、1,761 千円となりました。

事業活動における経常増減差額は、▲921,104 円となりました。

## 「ていくたく拠点」

新型コロナウイルスをはじめとする感染症は、地域や季節によって流行する兆しがあるため、利用者や職員の安全を最優先に徹底した感染予防対策を行いました。このため、職員や利用者新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染が見られましたが、拡がることはありませんでした。また、【いつでも相談】【ていくたく参観日】【親子レク・支援】などの行事等についても、昨年度に引き続きコロナ禍前の内容に戻して実施することができました。

道立施設専門支援事業では、管外から医師らを招き自閉症の傾向のある児童について、小集団療育を実施しその後個別の療育内容について指導を仰ぎました。

「5領域」を含めた総合的な支援を提供するために、小学校の教師や保育園の保育士等で構成する支援者会議を開催し、それぞれの現状を把握した後、個々の支援児の目標について確認と指導ポイントについて共通認識を持ちました。

今年度、体調不良等におけるキャンセルが児童発達支援では、年間利用予定日数（延べ）1,365日に対し実利用日数が984日（72.1%）となり、前年度より0.5ポイント減の約28.9%のキャンセル率となっています。また、放課後等デイサービスでは、年間利用予定日数（延べ）1,934日に対し実利用日数1,553日（約80.3%）となり、前年度より0.6ポイント減の約19.1%のキャンセル率となっています。キャンセルの主な要因には、新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザの拡大が影響しています。

### 収 支（計算書P43）

事業収益は、前年度比635千円増の52,805千円となりました。

事業支出は、前年度比3,599千円増の43,038千円となりました。主な要因は、人件費は前年度比2,574千円増（職員1名増）、事業費は前年度比1,243千円増（賃借料フリードリース、車両費増）、その他経費218千円減となりました。

事業活動における経常増減差額は、前年度比2,974,715円減の9,920,741円となりました。

ただし、福祉拠点（法人本部）で計上している車両関係費などの管理業務経費5,000千円は、振替えていません。

## 「公益事業」

◎帯広市・音更町・幕別町・士幌町から受託している日中一時支援事業は、実利用者12人、延利用者数283人となりました。各市町の地域生活支援事業の要綱等に則り、適切に支援しました。

### 収 支（計算書P47）

事業収入が、前年度比881千円減の1,428千円となりました。主な要因は、利用日数減（1名）、移動支援へサービス変更となり収入が減となりました。

事業支出は、前年度比117千円増の2,333千円となりました。

事業活動における経常増減差額は、前年度比1,048,919円減の▲905,432円となりました。

◎共生型事業は、ふれあい食堂を予定通り12回開催することができました。

### 収 支（計算書P47）

事業収入が、前年度比74千円増の432千円（うち寄付金272千円）となりました。

事業支出は、前年度比 52 千円増の 588 千円となりました。

事業活動における経常増減差額は、▲114,664 円となりました。

◎レスパイトサービス事業は、延利用者数 1 人でした。介護保険法、総合支援法などの福祉サービスを受けられない場合でも、言語聴覚士による支援が必要と事業者が判断した方に対して、専門的な指導・支援を行いました。

## 「法人本部」

### 1 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会を次のとおり開催しました。

回数	開催日	参加数	議案等
第 1 回	令和 6.6.7	理事 5 名 監事 1 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第 1 号 令和 5 年度 事業報告及び決算報告について</li> <li>・議案第 2 号 評議員会の開催について</li> <li>・議案第 3 号 従業員貸付金制度規程について</li> <li>・議案第 4 号 福祉・介護職員等処遇改善加算の支給に関する規程の制定と介護職員処遇改善加算金の支給に関する規程及び、介護職員等特定処遇改善加算金の支給に関する規程、介護職員ベースアップ等手当の支給に関する規程の廃止について</li> <li>・報告第 1 号 監査報告について</li> <li>・報告第 2 号 職務執行状況について</li> </ul>
第 2 回	令和 6.6.21	理事 4 名 監事 1 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告第 1 号 第 1 回評議員会の議決事項の報告について</li> </ul>
第 3 回	令和 6.12.19	理事 5 名 監事 1 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第 1 号 令和 6 年度第 1 次補正予算について</li> <li>・報告第 1 号 職務執行状況について</li> </ul>
第 4 回	令和 7.3.27	理事 4 名 監事 2 名	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第 1 号 令和 6 年度第 2 次補正予算について</li> <li>・議案第 2 号 令和 7 年度事業計画（案）及び予算（案）について</li> <li>・議案第 3 号 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について</li> <li>・議案第 4 号 職員の懲戒処分の基準等に関する取扱規程の制定について</li> <li>・報告第 1 号 職務執行状況について</li> </ul>

(2) 評議員会について、次のとおり開催しました。

回数	開催日	参加数	議案等
第1回	令和6.6.23	評議員5名	・議案第1号 令和5年度事業報告及び決算報告、監査報告について

## 2 2024年度の主な計画の検証について

### ① 評議員会・理事会の開催と運営

上記内容のとおり開催しました。

### ② きらきはうすの外壁塗装

令和6年6月に施工しました。

### ③ えがおに車椅子用車両1台

令和6年10月に24時間テレビ実行委員会より贈呈決定の通知がありました。

### ④ 各種障がい者福祉助成金への積極的な応募

本年度は、1か所から助成を受ける事ができました。

24時間テレビ（えがお：車両ノア：本体価格3,193,000円）

### ⑤ 求人对策の継続と定着率向上

#### ・処遇改善手当配分方法の見直し

当初の計画通り行いました。

#### ・実習性の受入体制の充実

帯広大谷短期大学より保育実習（2名）、介護実習（2名）の生徒を受入れました。

#### ・各事業所の職員交流研修

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し実施しませんでした。

#### ・インターンシップの積極的受入

希望する学生がいませんでした。

### ⑥ 財務管理

#### ・会計処理の適正化

顧問税理士による指導・相談のもと、適正に行う事ができました。

#### ・会計基準に基づく予算執行と決算処理

適正に行う事ができました。

#### ・透明性の確保

電子帳簿保存法の検討を行いました。

### ⑦ 建設準備委員会の開催

3回開催し、各事業所の代表職員より意見を聴取しました。

### ⑧ 重度障害者等包括支援事業の開始

利用者1名を受け入れました。

### ⑨ 感染対策委員会の設置

4月に設置し、年4回開催しました。

### ⑩ 業務継続計画（BCP）及び各規程

職員を対象に研修と訓練を実施しました。

### 3 収 支 (法人全体) (計算書P1)

#### (1) 資金収支計算書 (資金状況) について

事業収入は、予算額266,213,220円に対し実績額266,467,272円(執行率100.1%)で、前年度比95.9%となりました。

事業活動支出は、予算額270,456,824円に対し実績額264,758,241円(執行率97.9%)で、前年度比103.1%となりました。執行残は5,698,583円で、主な内容は、人件費653千円、給食費657千円、水道光熱費425千円、保険料85千円、保健衛生費608千円、消耗品費788千円、車両費425千円、福利厚生費100千円、事務消耗品費199千円、その他経費1,758千円でした。適切な予算配分及び補正予算を組み、財産管理を行いました。

#### (2) 施設整備等における収支について

施設整備等収入は、今年度はありませんでした。

施設整備等支出は、予算額12,553,148円に対し実績額12,553,148円執行率100%となりました。

主な内容は、福祉医療機構等借入返済(8,292,000円)、きらきはうす壁塗装工事(910,000円)、パソコン4台(791,780円)、ワルツエアコン(231,000円)、リース債務返済支出(2,317,368円)でした。

法人全体では、当期資金収支差額が▲10,282,531円、前期までを含めた翌期への繰越資金残高は、96,087,580円となりました。

また、社会福祉法人の主目的は、利益獲得ではありませんが、安定的・継続的に福祉サービスを提供するためには、一定の収益性を確保することが重要であります。そのための基本的な指標の経常増減差額率(経常増減差額÷サービス活動収益計×100)が-5.82%となり、厳しい運営となりました。

#### (3) 事業活動計算書 (利益状況) について (計算書P25)

当期活動増減差額は、法人全体で前年度の4,458,713円より19,644,429円減の▲15,185,716円となりました。

サービス活動収益は、前年度比9,680,726円減の261,455,741円となりました。主な要因は、放課後等デイサービスは9,445千円の増でしたが、重症心身事業18,949,500円が、えがお拠点から児童部門に移行し減となったことによるものです。

サービス活動費用は、前年度比8,265,837円増の279,785,818円となりました。主な要因は、人件費6,141千円の増によるものです。

また、法人全体としての**人件費比率**(人件費÷サービス活動収益計×100)が82.4%(前年度77.2%)となり、毎年人件費の割合が増える傾向にあり、収益に影響しています。円滑に福祉サービスを提供する上で、適切な人員配置と適切な報酬水準の確保は不可欠ですが、一方で安定的な経営のためには固定費としての性格が強い人件費比率を、一定水準に抑える必要があります。しかしながら毎年の定時昇給による増額分と、採用1名と外国人3名の雇用などにより、人件費比率を下げる事が出来ませんでした。さらに、利用者の入院や体調不良、コロナによる閉鎖や、インフルによるキャンセルがあり、人件費率がUPした要因の一つとなりました。

新年度においては、これまで以上に、利用者人数に対する職員配置が適切か等、稼働率も検証しながら人件費比率の確認を行います。

◀ 登記・定款変更事項 ▶

2024.06.24 社会福祉法人変更登記 資産総額の変更（令和6年3月31日現在）

◀ 規則・規程変更及び制定 ▶

2024.06.1 福祉・介護職員等処遇改善加算の支給に関する規程の制定  
 介護職員処遇改善加算金の支給に関する規程の廃止  
 介護職員等特定処遇改善加算金の支給に関する規程の廃止  
 介護職員ベースアップ等手当の支給に関する規程の廃止

2025.03.27 育児・介護休業等に関する規則の一部改正  
 職員の懲戒処分の基準等に関する取扱規程の制定

◀ 防災訓練等 ▶

下記の通り行いました。

避難訓練・・・夜間避難訓練（グループホーム）	2回
日中避難訓練（グループホーム）	1回
日中避難訓練（きらきら全体）	1回
日中避難訓練（えがお）	2回
日中避難訓練（ていくたく）放デイ5回 児童発達5回	
救急救命講習 法人全体（えがお）	1回

◀ 2024年度職員採用 ▶

区分	採用年月日	職種	処遇	採用理由
採用	4月1日	幼稚園教諭	職員	増員
採用	4月1日	保育士	職員	増員
採用	4月1日	調理師	嘱託職員	増員
採用	4月23日	ヘルパー	パート	増員
採用	6月17日	介護福祉士	職員	増員
処遇変更	7月1日	介護福祉士	嘱託職員	職員から嘱託へ
処遇変更	10月1日	調理員	パート	職員からパートへ
採用	10月1日	幼稚園教諭	パート	増員

◀ 2024年度退職職員 ▶

区分	退職月日	職種	処遇	理由
退職	5月7日	支援員	職員	自己都合
退職	5月31日	運転手	パート	自己都合
退職	6月30日	事務員	パート	自己都合
退職	12月17日	保育士	職員	自己都合

退職	2月28日	介護福祉士	職員	自己都合
退職	3月31日	保育士	職員	自己都合
退職	3月31日	看護師	パート	自己都合

#### 《 職員への福利厚生の実施 》

職員の生活を大切にしながら満足度が高く効率的に働いていただくことを念頭に、有給休暇（取得率フルタイム職員65%・フルタイム外職員54%）、育児休暇（5人）、介護休暇（6人）の取得について勤務調整を図りました。

#### 《 会計事務所による外部監査 》

税理士の委嘱契約を交わしている関会計事務所から毎月及び決算期に監査を受けました。

#### 《 2024年度 会議開催の状況 》

開催日	会議名	主な議題	職員	理事
2024.4.9	キッチン会議	・4月からの体制について変更・アレルギー対応について	2	
2024.4.10	ぽこ会議	・ケース会議	5	
2024.4.12	ケース会議	・薬の処理方法について	3	
2024.4.16	かのん会議	・ケース会議	5	
2024.4.17	ワルツ会議	・ケース会議	7	1
2024.4.15	放デイ月例	・研修について・保護者面談について・今後の動きについて	6	
2024.4.24	えがお全体会議	・新年度の体制について・ケース会議・イベントについて	20	1
2024.4.24	部門調整会議	・新年度の動きについて・事業計画の周知・各部署より	8	2
2024.5.10	主任会議	・活動について・経費削減について・スケジュールについて	4	
2024.5.21	きらきら月例	・キャリアパスについて・ケース会議	6	
2024.5.21	GH全体会議	・研修について・短期入所について・イベントについて	9	1
2024.5.22	えがお全体会議	・自己車について・ケース会議・携帯やタブレットについて	18	1
2024.5.30	キッチン会議	・アレルギー等について・給食の提供について	3	
2024.6.12	ぽこ会議	・ケース会議・メニューについて	3	1
2024.6.17	きらきら月例	・ケース会議・夏祭りについて	4	
2024.6.18	かのん会議	・ケース会議・感染対策について	6	
2024.6.20	ワルツ会議	・感染対策について・イベントについて・ケース会議	8	
2024.6.24	主任会議	・日誌の記入について・加算について	5	
2024.6.26	ワルツ会議	・ケース会議	6	
2024.6.26	えがお全体会議	・感染対策について・日誌について・ケース会議	24	1
2024.6.27	部門調整会議	・感染対策について・マイナンバーカードについて・GHエアコンの件	5	

2024. 6. 28	キッチン会議	・食事提供加算について・食事量について	3	
2024. 7. 8	放デイ月例	・夏祭りスケジュール、担当確認	5	
2024. 7. 17	主任会議	・検討課題・活動について・外国人について	4	
2024. 7. 18	キッチン会議	・メニューについて・夏祭りについて・個別提供について	3	
2024. 7. 24	えがお全体会議	・活動について・ケース会議	18	1
2024. 7. 25	GH全体会議	・感染対策について・ケース会議・食事会の反省	11	1
2024. 8. 6	かのん会議	・ケース会議	4	
2024. 8. 7	ワルツ会議	・ケース会議・緊急連絡について	8	
2024. 8. 14	ぼこ会議	・ケース会議	4	
2024. 8. 28	えがお全体会議	・感染対策について・ケース会議・夏祭り・経費削減について・シフトについて	18	1
2024. 8. 30	キッチン会議	・試作・感染対策について・夏祭りについて	3	
2024. 9. 3	主任会議	・事務作業について・土曜日のサービスについて	5	
2024. 9. 9	放デイ月例	・夏祭りの反省・イベントについて・連絡事項	4	
2024. 9. 19	キッチン会議	・夏祭りの反省・給食の量・イベントについて	3	
2024. 9. 25	えがお全体会議	・活動について・ケース会議・安全運転について・感染症について	15	1
2024. 10. 15	かのん会議	・ケース会議・感染対策について	7	
2024. 10. 16	ワルツ会議	・ケース会議・短期入所について	7	
2024. 10. 16	キッチン会議	・利用者事の給食の提供について・イベントについて	3	
2024. 10. 21	本部会議	・職員面談について・観楓会の検討	3	2
2024. 10. 21	デイ月例会議	・各活動について・ケース会議	6	
2024. 11. 18	デイ月例会議	・ケース会議・クリスマス会について・冬休みについて	5	
2024. 11. 20	GH全体会議	・イベントについて・ケース会議・感染対策について	10	
2024. 11. 23	キッチン会議	・メニューについて・カレー作りについて・ケース会議	3	
2024. 11. 27	えがお全体会議	・ケース担当より・グループワーク・クリスマス会について	15	1
2024. 12. 2	えがお主任会議	・各活動について・	6	
2024. 12. 5	キッチン会議	・クリスマス会について・献立表について	3	
2024. 12. 9	えがお主任会議	・活動スケジュール、検討課題について	5	
2024. 12. 10	ワルツ会議	・ケース会議	8	1
2024. 12. 11	ぼこ会議	・ケース会議・外国人の夜勤について	5	
2024. 12. 11	部門調整会議	・令和6年度の売上、稼働率、処遇改善について・職員の配置について	7	1
2024. 12. 16	きらきら月例	・自己評価について・冬休みについて	5	
2024. 12. 17	かのん会議	・ケース会議・外国人の夜勤について	6	
2024. 12. 25	えがお全体会議	・勤務表について・サービスの変更について・ケース会議	16	1

2025. 1. 15	えがお主任会議	・休憩について・帰りの送迎について	5	
2025. 1. 21	ワルツ会議	・計画書について・ケース会議	7	1
2025. 1. 21	G H全体会議	・外国人について・ケース会議	11	1
2025. 1. 22	えがお全体会議	・ケース会議・サービスについて	19	1
2025. 1. 24	部門調整会議	・新年度の処遇改善について・経費等の節約について	7	1
2025. 1. 25	キッチン会議	・備蓄職について・メニューについて・試作	3	
2025. 1. 27	きらきら月例	・ケース会議・長期休みのスケジュール・新年度について	6	
2025. 2. 12	ぽこ会議	・ミャンマーの指導について・ケース会議	6	
2025. 2. 18	かのん会議	・外国人の指導について・ケース会議	5	
2025. 2. 19	きらきら月例	・活動の見直し・新年度スタッフに配置について	5	
2025. 2. 19	ワルツ会議	・ケース会議・短期入所について	6	1
2025. 2. 28	キッチン会議	・来年度のメニューについて	3	
2025. 3. 3	きらきら月例	・新規利用者について・ケース会議	2	
2025. 3. 7	キッチン会議	・試作・利用者の対応	3	
2025. 3. 26	ワルツ会議	・4月からの動きについて・ケース会議	5	1
2025. 3. 26	G H全体会議	・4月からの動きについて	11	1
2025. 3. 26	えがお全体会議	・4月からの動きについて・ケース会議	14	1

《 法人共生型事業 》

月日	内容	場所	参加人数
2024. 4 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	50 人
2024. 5 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	53 人
2024. 6 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	43 人
2024. 7 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	60 人
2024. 8 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	50 人
2024. 9 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	38 人
2024. 10 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	27 人
2024. 11 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	49 人
2024. 12 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	46 人
2025. 1 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	54 人
2025. 2 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	52 人
2025. 3 月	ふれあい食堂	音更町総合福祉センター	55 人

≪ 役員・職員配置 ≫

(1) 本部 理事 6 名 評議員 7 名 監事 2 名

(2) 事業

①職種別職員数

職種	正職員		嘱託職員		再任用職員		パート職員		合計	
	年度初	年度末	年度初	年度末	年度初	年度末	年度初	年度末	年度初	年度末
介護福祉士	17	14	1	2	2	2	2	2	22	20
社会福祉士	1	4							1	4
ヘルパー 1 級					1	1			1	1
ヘルパー 2 級	1	1	1	1	1		2	3	5	5
保育士	4	2					1	1	5	3
看護師、言語聴覚士 作業療法士 教員資格保有者	2	3					2	3	4	6
管理栄養士・栄養士	1	1							1	1
世話人、夜間支援員 調理員、運転手、指導員	3	3	7	7			10	8	20	18
事務員	3	3					3	3	6	6
特定技能外国人	4	4							4	4
合計	36	35	9	10	4	3	20	20	69	68

≪ 職員交流 ≫

日付	内容	場所	人数
2025 年 1 月	新年会	インザスイート	56 人

≪ 2024 年度事故報告と研修一覧 ≫

別紙資料①

≪ 2024 年度の利用状況 (2025. 3. 31 現在) ≫

① 18 歳以上

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	利用者合計
人数	7 人	10 人	3 人	1 人	2 人	0 人	23 人

② 18歳未満

児童発達支援・放課後等デイサービス（定員 10 名）

	放課後デイ	個別（デイ）	個別（児発）	医療（デイ）	医療（児発）	利用者合計
人数	14 人	6 人	2 人	4 人	1 人	27 人

③ 18歳未満（第2子ども発達支援センター）

放課後等デイサービス（定員 20 名）・児童発達支援（定員 18 名）

	放課後デイ	発達支援	利用者合計
人数	42 人	35 人	77 人

合計 127 人